



吉川市立東中学校 学校だより

あいさい

<https://www.yoshikawa.ed.jp/higashi-jh>

令和8年5月号

全校生徒数 280名

〒342-0017

住所：吉川市上笹塚 3-104-1

TEL：048-982-0244



自分からひらく、心の窓 ～一挨拶（いちあいいっさつ）～

校長 伊東 猛

新緑のまぶしい季節となりました。新年度がスタートして一か月が過ぎようとしています。生徒たちは新しい環境の中で、それぞれに精いっぱい努力を重ねている姿がうかがえます。五月は、学びに向かう姿勢や生活習慣がより定着してくる時期です。今後も新しい生活の中で一人一人の成長を温かく見守っていきたいと思います。この時期は、新たな友達や先生とのかかわりが増え、人間関係が形づくられていく大切な時期でもあります。そんな中で、私が大切にしたいと考えているのが「あいさつ」です。

「あいさつ」を漢字で書くと「挨拶」と書きます。どちらの字にも「てへん(手)」がついています。この言葉は、もともと「禅」の世界で使われていた修行の言葉でした。「挨(あい)」には「心を開いて押す」、「拶(さつ)」には「相手に近づく」という意味があります。つまり、挨拶の本来の意味は、「自分の心を開いて、相手の心にそっと触れる」ということなのです。ただ形式的に言葉を交わすのではなく、「私は心を開いていますよ、あなたの心はどうですか?」と、互いに心を通わせる勇気ある行動。それが挨拶のルーツです。

この「心を開いて近づく」という力は、今の時代、ますます大切になっていると感じます。今は、SNSなどで手軽に繋がれる一方で、目の前の相手と直接向き合うことが少し苦手な時代とも言えるのではないのでしょうか。そんな中で、自分から「おはよう」と声をかけることは、「私はあなたを尊重し、対話する準備ができていますよ」という、とても大切な意思表示になります。挨拶は、信頼関係を作るための「一番身近なツール」なのです。

上記の内容は、今の学校生活に当てはめてみるすることができます。新しいクラスでまだ話したことがない人に、勇気を出して自分から「おはよう」と言ってみる。それだけで、相手の心の中にある「仲良くできるかな」という不安の霧が、パッと晴れることがあります。

部活動でも同じです。挨拶を交わすことで、仲間のちょっとした表情の変化や、体調の違いに気づくことができます。挨拶は、仲間の「心の温度」を確かめ合う、思いやりの行動でもあります。

挨拶ができるということは、「自分のことだけでなく、周りの人の存在を大切にできる、心のゆとりがある」ということです。その一言があるだけで、周りの人は「あ、この人は私を認めてくれているな」と安心します。そんな「相手をホッとさせる力」こそが、皆さんのこれからの人生を助けてくれる、本当の強さになるはずですよ。

普段使っている「あいさつ」ですが、いろいろ調べていくと、400年以上前から相手を大切に思う気持ちが込められていることがわかります。「あいさつ」は心と心をつなぐ大切な言葉です。思いをのせたあいさつを交わしながら、東中を真心いっぱいの学校にいきましょう。

